

3DCAD 教育環境の整備急げ

指導者育成が課題

2013年度から、高等学校学習指導要領が改正され、3次元CAD教育が新教育課程に加わったものの、教育現場では、予算不足から十分な教育環境整備ができていないことが分かった。24、25日の2日間、茨城県つくば市のつくば国際会議場「エポカルつくば」で開かれた14年度東日本建築教育研究会茨城大会の製図分科会一写真一での報告では、生徒の数に対してパソコンの台数が不足していたり、パソコン自体の性能が3DCADを使うには低すぎ、フリーズしてしまうというのが現状だということが報告された。また、指導者の育成も喫緊の課題だと指摘された。

東日本建築教育研究会・茨城大会製図分科会で報告

分科会で報告したのは、山梨県立峡南高校の阪野絵美教諭と神奈川県立神奈川工業高校の國島かほり教諭の2人。両教諭とも、学校での3DCADの使い方指導について紹介した。いずれの学校も3DCADはフリーソフトの「Sketch Up（スケッチ・アップ）」を使っている。

パソコンの台数不足

峡南高校の3DCAD教育は、マグカップの作成から始まる。比較的、簡単にできることや、カップに自分の好きな模様を入れさせることで、生徒に興味を持たせることから始めている。それができたら、実際に作りたいすの模型を3DCADでデザインし、最終的に2DCADを使ってプレゼンテーション用のボードを作成させていることが紹介された。

神奈川工業は「3次元CADを利用して、コンペに挑戦」をテーマに掲げて指導している。同校の建築科が専用に見えるパソコンは、生徒30人に対し10台しかなく、しかもOS（オペレーションシステム）は、既にサポートが受けられなくなった「XP」。このことから「パソコンが古いため、

そしてXPのため、時代の変化に対応していくのには厳しい現状」にあり「画像が重いとパソコンの作業能力不足から、画面がフリーズしてしまう」こと、プリンターへのデータ伝送能力から「印刷時間が10分以上かかる」といった現状が示された。

処理能力の遅さ指摘

フリーソフトであるスケッチ・アップを使っていることで、自宅にパソコン環境が整っていない自宅で作業ができるといふ利点もある。実際、生徒からも学校にあるパソコンの処理能力の遅さを指摘する声が上がっている。教育方針としては、生徒のやる気を引き出し、生徒の関心・意欲が高まり、作図や学習意欲を向上させることを中心に考えているとした。



東日本建築教育研究会総会

新会長に小林墨田工高校長

分科会に先立って開かれた総会・茨城大会では、2013年度事業報告、同収支決算、14年度事業計画、同収支予算の各案を上程、満場一致で可決承認された。役員改選では新会長に小林晶代東京都立墨田工業高校校長を選出した。



開会式では、中島栄一大会実行委員長（茨城県立つくば工科高校校長）が「建築学科で学ぶ生徒たちが、建設業界でたくましく生きていくためにも、本会の役割は大切である」とした上で「（建設業界への）入職促進への取り組みがますます重要になってきている」とあいさつ。次いで豊田善敬会長（都立蔵前工業高校校長）が「教育活動を通じて、生徒が地域産業を支える人材となるよう育てていってほしい」と述べるとともに、

行政や産業界が人材確保策を打ち出していることを踏まえ「今後の施策に」当研究会が何らかの形でかかわっていかねばならない」と語った。また、小林新会長は「ここに参加している先生方の活力を、今後の活動に取り込んでいきたい」と抱負を述べた。写真。

承認された議案のうち、14年度事業計画では、8月7、8日に夏期研究協議会「授業に役立つ、おもしろ構造科学実験」を開催するほか、第33回高校生建築製図コンクールの開催などが挙げられている。

